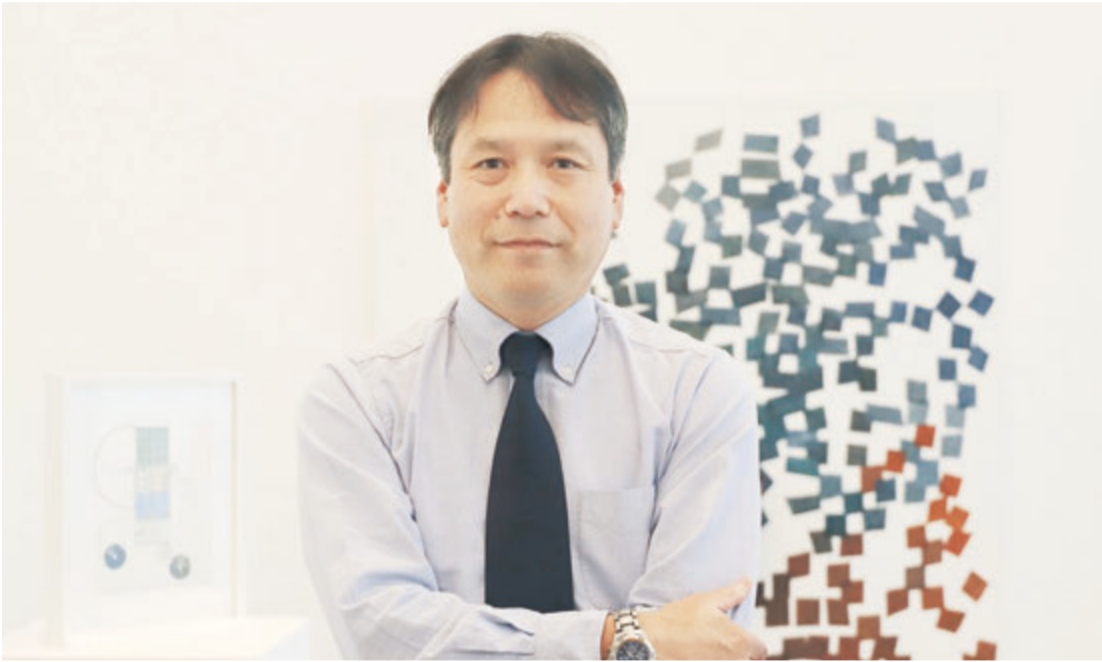


はばたき

H A B A T A K I

Vol. 51



その力を、他者のために。



-TENRI PIONEERS-

価値観を、揺さぶる。

多文化のあいだで生きるということ。

天理日独文化工房 志水美郎 さん(P.3)

- ON-GOING PROJECT -

なら歴史芸術文化村×歴史文化学科(P.8)

中国語専攻紹介(P.9)

外交官養成プロジェクト(P.10)

- INTERVIEW -

現・天理医療大学 医療学部 看護学科 3年生 丸本 翔太 さん(P.6)

現・天理医療大学 医療学部 臨床検査学科 3年生 上村 仁愛 さん(P.7)

在ハイチ日本国大使館 三等書記官 大黒 和親 さん(P.11)

Knowledge to Act

他者に貢献する教養を

飛びきり美しい光景と出会ったとき、
その喜びを、真っ先に伝えたいのは誰だろうか？
私たちの「幸せ」——それは、誰かと分かち合ったとき、
一際大きくなる性質を持つ。
誰かが喜んでいるとき、その笑顔は私たちに幸せにする。

天理大学では、学びで得た力を使って、
社会や他者に貢献する人材の養成をめざしている。
ある学生は街づくりを、またある学生は
医療で誰かを支えることを目標に
今日も図書館で本を広げ、教養や知識を身につけ、そして、実践の場に立つ。
それでも、時には壁にぶつかることもある。
そんなときは少し先を歩く卒業生たちの背中が、
挑戦することの大切さを、そっと教えてくれる。

めまぐるしいスピードで物事が進む、変化の激しい時代だ。
だからこそいま、
相手の幸せを自分のことのように想い、
その実現に向けて行動できる力が、
一層必要とされているのではないだろうか。

もしあなたに得意なことがあるなら、
その力を、誰かのために使ってみよう。
誰かの笑顔こそ、私自身の喜び。
そんな価値観のシフトを生み出す学びを、
天理大学で経験しよう。

TENRI PIONEERS



価値観を、揺さぶる。

多文化のあいだで

生きるということ。

TENRI PIONEERS
天理日独文化工房事務局長

しみず よしろう
志水 美郎さん

1988年3月、外国語学部ドイツ学科卒業。卒業後、天理教海外部勤務、マールブルク大学派遣留学を経て2000年にドイツへ渡航。同年より国立ケルン大学音楽部民族音楽学科にて非常勤講師、ケルン雅楽アンサンブル代表を務める。現在、天理日独文化工房(2006年設立)にて事務局長を務め、2019年より天理大学ドイツ・サテライトオフィスの責任者を兼任。
2011年 日独文化促進財団賞受賞 2021年 博士(宗教学)

「いまの社会において、一人でも多くの人間が多文化にかかわることは、とても重要だと言えます。ドイツに留学中の学生さんに対し、価値観の転換を促す一助になるような支援ができればと思っています」。

ドイツ、ケルン。ローマ時代から続く旧市街地の一角を歩くと、天理大学のサテライトオフィスでもある天理日独文化工房に辿り着く。冒頭のように話すのは志水美郎さん、外国語学部ドイツ学科の卒業生だ。天理日独文化工房の事務局長およびサテライトオフィスの責任者として、日本とドイツの架け橋をめざし活動している。

「大学時代に雅楽部の活動に励んだ経験を活かし、国立ケルン大学音楽部民族音楽学科にて非常勤講師として邦楽の理論と実践を教えながら、ケルン雅楽アンサンブルの代表もしています。異文化間の出会いの場所を提供する天理日独文化工房で「展覧会やコンサートをして本当に良かった」との声をいただくことに喜びを感じます。また母校のサテライトオフィスとして後輩である学生さんをサポートし、皆さんの目が開く瞬間に立ち会えることも大きな喜びです」。

複数の文化を経験することは、非常に貴重です。
 自分の価値観に囚われすぎないことが、
 他者への理解につながります。

本当の壁は「言語」ではない。

海外生活で大切になる

姿勢を先輩に伝えたい。

もともと天理大学に入学した理由は、将来ドイツに行くためだった——そう話す志水さんのドイツ生活は長い。天理大学卒業後、天理教海外部よりマルブルク大学へ派遣留学に出発し、退部後、2000年に同大学に復学。このときから現在まで、在住歴は21年になる。流暢なドイツ語で現地生活を送る志水さんだが、当初は苦労することも多くあったという。

「特に初めて留学した頃は、孤独感も味わいました。異文化に生きるうえで言語が壁になると考えがちですが、実は一番の問題は言葉ではなく、『価値観』に囚われてしまうこと。私の場合は、日本の物差しで物事を見ていたことが原因だったと思います。日本とドイツが大きく違うエピソードとして、例えば知らない人が新たに輪に入ってきた場合、日本なら積極的に話しかけて、馴染みやすいように配慮したりしますよね。ところが、ドイツではそれが全くない。自分からアピールしないと誰かが構ってくれるということはありません。かといってドイツの

人が冷たいということではなくて、より主体性が求められるのです。誰かと一緒だったらやるのではなく、誰もいなくても自己判断して行動する力が求められます。私自身こうした苦労を感じましたので、留学中の学生さんが殻を破り、有意義に過ごせるような支援ができるよう心がけています」。

雅楽部での経験を活かし、

ケルン大学で授業を担当。

多文化が教えてくれた気づき。

2006年の天理日独文化工房設立に先立ち、志水さんは2000年から天理大学の協定校でもある国立ケルン大学で教鞭を執っている。担当する授業では楽器の演奏方法も教えている。

「アメリカで生まれた『バイミュジカルティ』という研究方法がありますが、これは他文化の音楽文化を自文化の音楽として学び研究することをめざします。こうした発想のもと、ケルン大学では理論だけでなく、実技も教えています。笙・箏・龍笛の全てを初心者に向けて教えるのはなかなか大変です。バイミュジカルティの考え方もそうですが、2つ以上の文化を経験し、

体得するというのは、非常に貴重なことです。西洋音楽と非西洋音楽、ドイツ人と日本人、同時に異なる2つであること、そして時にそのボーダラインに立つことには大きな意義があると考えます」。

「インテリじゃないなら、あなたは何者なの？」。

生きる証としての教養を胸に。

志水さんは2021年、マールブルク大学において、宗教学で博士号を取得している。幅広い分野に造詣の深い志水さんは、ドイツにおいて教養の大切さを感じる瞬間が多くあると話す。



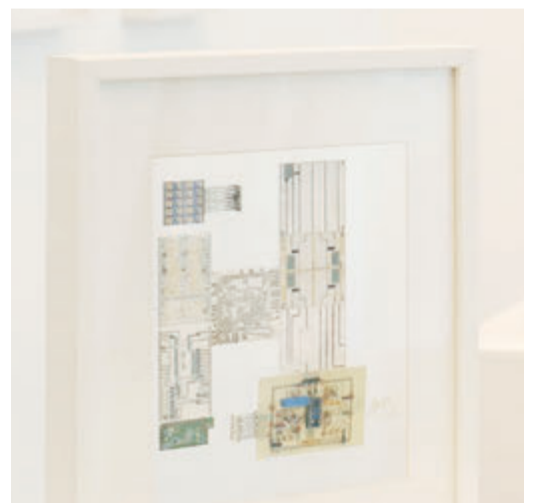
「初めて留学した30年前、大学の授業中にある教員に『あなたたちはインテリか?』と問いかけられたことがあります。日本でも『インテリ』という言葉を使いますが、どこかいい加減な知識人のような、ネガティブな意味を交えて使うことが多いので、当時の私の答えはノー。ところが私以外の受講者は皆そうだと当然のように肯定しました。

教員は私の答えにびっくりして、『インテリじゃないなら、あなたは何者なのだ?』と。そこで初めて、教養や豊富な知識が非常に重要だ、という社会の共通認識がドイツにはあることに気づいたんです。私は教養とは武器やツールではなく、長い人生の設計図になる、生きる証だと考えてい

ます。異文化のなかで生きるために必要な『自分の価値観を揺さぶる』作業も、教養がなければできませんよね。他を知り、相手の気持ちを理解するために、学びは欠かせないものだと思います」。

そんな志水さんのモットーは、喜びを見つけ、他者と分かち合うこと。後輩たちに向けて、メッセージをこう語る。

「自分の能力を過少評価することなく、ぜひ海外や異文化のなかに積極的に飛び込んでほしいと思います。特に留学はさまざまな価値観を知り、リーダーシップを習得するための最たるものです。サテライトオフィスとして全面的なサポートも行いますので、ぜひドイツに学びにいらしてください。応援しています」。



— 他者に貢献する教養教育をめざして

グローバル化の加速やデジタル技術の革新など、社会は変革期にある。こうした変化の激しい時代にあるからこそ、他者を思いやり、利他的に行動できる力がますます求められている。では、「誰かのために行動できる利他的な力」とは、どのように身につくのだろうか。そこで必要なものこそ「教養」であると、私たちは考えている。異なる宗教や文化を理解し、社会の課題を見つけ、他者に寄り添うためには、豊かな知識や経験が欠かせないからだ。天理大学では、「宗教性・国際性・貢献性」を具えた人材を社会に送り出すために、学生たちが深く幅広い知識と経験を身につけるための授業や留学制度、海外プログラムを多数用意している。そこで私たちがめざすのは、単に学ぶのではなく、学びを他者のために活かせる人材の養成である。文中の志水さんが語るように、まさに「自分の価値観を揺さぶり、相手を知る」ために必要な力を育む教育を、引き続き実施していく。そこで得た「長い人生の設計図」は、学生自身にとっても心強い道標となるはずだ。



天理大学 医療学部 (仮称)

看護学科

医療でひとを支えたい。 災害地支援に携わる看護師をめざして。



医療現場に必要な技術と
人間力を磨きながら
看護学科で感じる成長。

「高校生の頃、将来ひとの役に立てる職業につきたいとの想いで進路を考えたとき、病や怪我と闘う患者さんをそばで支える看護師に興味を持つようになりました。」

2023年に天理大学と統合する現・天理医療大学で学ぶ、医療学部看護学科の丸本翔太さん。看護の技術はもちろんのこと、医療人としての倫理観の養成にも力を入れるカリキュラムを通じ、学びを深めている。

「特に興味を持って取り組んでいるのは、『生命倫理』の授業です。出生前診断や医療物資の分配など、答えのないトピックについて考えるのはとても難しいですが、医療従事者に欠かせない『人間力』を高めていくうえで必要な授業だと感じています。また看護専門科目では、実技やグループでのディスカッションを通して、患者さんのニーズに沿った看護を提供するために必要な看護技術や観察力を養っています。」

心に染みだ「ありがとう」の言葉。

実習を通じて学んだ

自覚と責任感を胸に。

丸本さんにとって、最も印象に残っているのは、天理よろづ相談所病院での実習だ。初めて患者を担当したことで、より看護への責任感を強めたという。

「最初に医療現場に立ったときは、緊張

して積極的な姿勢を失いかけたこともありましたが、それが悔しくて、空き時間を使って病気の成り立ちや患者さんに合った看護を徹底して調べました。現場の看護師の方々からの的確なアドバイスにも背中を押され、自信を持って看護を実践できるようになったのを感じています。何よりうれしかったのは、患者さんに『ありがとう』と声をかけていただいたこと。医療に携わることへの責任感を強め、大学の授業にもより熱心に向き合うようになりました。」

丸本さんがめざすのは、患者の心に寄り添い、医師や他の医療職と連携しながらチーム医療に貢献する看護師だ。漠然と抱いていた理想の看護師像を、学部の「人に尽くすことを自らのよこびとする」という理念に影響を受けながら、学びを通じて具体化した。そんな丸本さんには、夢がある。

「僕の目標は、被災地で看護支援を行うことです。入学前から国際的な医療支援にかかわりたいという夢があったのですが、『公衆衛生学』の授業を受けたことで、国内の現場での支援に携わりたいという想いを強めました。最善のケアを提供できるように、現状に満足せず努力を続けたいと思います。」



TENRI CHALLENGERS

現・天理医療大学 医療学部 看護学科 3年生

まるもと しょうた
丸本 翔太さん

「建学の精神にもとづく教育領域の拡大」を目的に、2023年4月に天理大学は天理医療大学と統合します。医療学部では、高い専門性と倫理観を具えた、人間力あふれる医療人を養成します。「人に尽くすことを自らのよこびとする」という天理医療大学の理念を引き継ぎ、看護学科では人に寄り添えるケアのプロフェッショナル(看護師)を、臨床検査学科ではチーム医療に貢献する臨床検査のスペシャリスト(臨床検査技師)をめざします。本学部最大の特徴は、医療学部キャンパス(別所キャンパス)のすぐ隣に位置する、天理よろづ相談所病院との連携です。この県内有数の先進医療機関を実習病院とするほか、非常勤講師として教育に当たる現役の病院スタッフが学びを支えます。「誰かの力になりたい」と願う学生の想いを具体的な目標へと昇華するべく、統合後も全力でサポートを実施していきます。

※統合時期は予定です。学部名・学科名・校舎名は全て現時点での仮称となります。



天理大学 医療学部（仮称）
臨床検査学科

顕微鏡で覗いた世界に心惹かれて。
信頼される臨床検査技師になりたい。



きっかけは理科の授業。
診断や治療を支える
臨床検査技師をめざす毎日。

「きっかけは理科の授業でした。中学生のとき、顕微鏡で葉の観察をした際に、肉眼では不可能なものを見てすごく感動しました。その後、医療関係の仕事調べるなかで、顕微鏡などを用いて病気の検査を行う臨床検査技師に興味を持つようになったんです」。

現・天理医療大学 医療学部臨床検査学科の上村仁愛さん。看護師の母と救命救急士の父を持ち、小さな頃から医療関係の職業に憧れを持ちながら育ったそう。臨床検査技師になる夢を叶えるために学科の学びに日々没頭している。

「臨床検査技師は、患者さんの身体や血液、尿などを検査する医療技術者です。医師が病気を診断するうえで、大切な役割を担います。臨床現場では検査技師が出した検査結果をもとに治療が行われるので、常に緊張感を持って正確な結果を出す必要があります。看護師と比べると患者さんと直接かかわる機会は少ないですが、検査に対する不安な気持ちを少しでも和らげたいとの想いで、学びに励んでいます」。

かつて学んだ反応式が
立体的に浮かび上がる楽しさ。
学びを活かし現場に貢献したい。

上村さんが特に興味を持って取り組んでいるのはPCR検査の実習だ。

「PCR検査は新型コロナウイルス感染症だけでなく、さまざまな病気の診断に用いられます。実習では自分の遺伝子採取してPCR検査を行い、アルコールの代謝機能を調べました。また血液型検査では自分の血液を採血して血液型を調べます。このように、自分自身の検体を使って検査方法を学べるのが楽しいです。数値化される原理への理解が深まり、中学や高校で学んだ化学をいまはより身近に感じます。紙の上に並んでいた反応式が立体的に浮かび上がるような感覚があるんです」。

もちろん実習中に難しさを感じたこともあった。

「検査の原理は複雑なものが多いので、理解に時間がかかります。私も培地に生えている菌が小さすぎて見逃してしまいそうになったことがあります。そんなときは先生方が丁寧なフォローをしてくれました。その指導のおかげで自分で考え、理由を探る主体的な姿勢が身につきました」。

成長を続ける上村さんには、目標がある。「臨床検査技師として、医師、看護師、薬剤師などの医療スタッフと協働し、最善の医療を提供できるようにしたいです。患者さんはもちろん、ともに働く医療従事者からも頼りにされる存在になりたいです」。



TENRI CHALLENGERS

現・天理医療大学 医療学部 臨床検査学科 3年生

うえむら にな
上村 仁愛さん

2023年4月、
天理大学に医療学部が誕生します。

歴史文化学科 × なら歴史芸術文化村

歴史・文化を未来に受け継ぐ。



6月19日、日本青年会議所近畿地区奈良ブロック協議会主催の「奈良ブロック大会天理大会」が「なら歴史芸術文化村」で開催され、天理大学が大会運営の協力・支援を行いました。天理大学は「なら歴史芸術文化村」と連携協定を締結し、人材育成・共同研究・地域活性化などの取り組みを共同で進めています。今大会への協力も社会貢献活動の一環として実施。主管の天理青年会議所から「今大会は8年ぶりの天理開催。高い知名度と発信力をもつ天理大学に協力いただきたい」と要請を受け、歴史文化学科の学部生・教員を中心に講演や体験ワークショップを行いました。

考古学・民俗学研究コース

体験ワークショップを開催

屋外のブースでは奈良の歴史と文化を実体験できるワークショップを実施。歴史文化学科の小田木治太郎教授と考古学・民俗学研究コースの学生は富本銭レプリカの铸造実演と富本銭レプリカの拓本しおりづくり体験を開催し、親子連れを中心に多くの参加者で賑わいました。「なら歴史芸術文化村」の学芸員も拓本しおりづくりを体験し、「富本銭や拓本といった歴史的な技術をお子さんにもわかりやすく説明されていた。持ち帰って使えるしおりに仕上げるアイデアは私たちも取り入れたい。今後もさまざまなかたちで天理大学との連携を深めていきたい」と好評の声をいただきました。



STUDENT VOICE

歴史の面白さを教えてくれた 天理市に恩返しをしたい

小さなお子さんにもワークショップを楽しんでもらえるよう、事前に準備を重ねてきました。予想以上に多くの方に体験していただけて驚きと喜びを感じています。私は高校時代から歴史や伝統文化に興味をもっていましたが、現物に触れたり体験できる機会はなかなかありませんでした。大学生になり、天理という恵まれた環境に身をおいたことで歴史や文化に触れる楽しさを再発見できたので、今後は私が地域の方々に魅力を伝えていけたらと思っています。在学中に今回のようなイベントに積極的に参加して経験を積み、卒業後は学芸員になりたいです。



文学部 歴史文化学科
考古学・民俗学研究コース 3年生
ありもと ゆうか
有本 結香さん

天野忠幸准教授による講演会を実施

メインフォーラムでは歴史文化学科の天野忠幸准教授が「大和の戦国時代から奈良の未来へ」と題して、戦国時代の大和・奈良の魅力について講演しました。天野准教授は「奈良は古墳や仏像、寺社建築において世界最高レベルを誇る一方、本来であれば地域色を出しやすい中世の歴史をアピールしきれていない」、「奈良の良さをアピールするために古代にプラスアルファして戦国時代の魅力の魅力を伝えたい」と述べ、「越智家栄と応仁の乱」、「松永久秀の実像」、「多聞山城の意義」について解説。伝統を守るだけでなく、伝統を活かし、伝統に挑み、新しいスタンダードを創っていくことが奈良の未来にとって必要だと語りました。



中国語で 社会のリーダーに。 中国語専攻の魅力

中国語専攻では、ICTを駆使して効率的に中国語コミュニケーションの基礎を固め、スピーチコンテストで中国語に磨きを掛けます。さらに中国語ボランティアや中国語圏への交換留学などを経験して、実践的中国語力と豊かな人間力を身につけ、多文化共生社会のリーダーをめざします。

Point 1

キャリアコンサルティングを実施

中国語専攻ではキャリア支援課と連携し、3年生を対象にキャリアコンサルティングを実施しています。担当する山西和宏非常勤講師は天理大学中国語専攻の卒業生であり、長年大手メーカーに勤め、中国語圏で活躍された経歴を持ちます。この取り組みは、国家資格キャリアコンサルタントの有資格者である山西講師から「学生が社会でいきいきと働けるよう自己実現のサポートをしたい」との申し出を受け、2022年4月よりスタートしました。現在は毎週水曜日に1日2人まで、1人あたり約1時間かけて個別相談に応じています。キャリアコンサルタントの専門知識を活かした丁寧なサポートと、豊富な社会経験に基づく業界・企業の情報提供によって自分に合った進路を見つけ、目標に向かって有意義な学生生活を送れるようサポートします。

INTERVIEW

私は「ビジネス中国語」を担当していますが、キャリアコンサルティングを行う1時間は教員ではなくコンサルタントとして学生と接しています。キャリアコンサルティングは、これまでの人生を振り返り、自己理解をすることから始まります。大切にしているのは一人ひとりの声を丁寧に聞くこと。将来何がしたいかわからないという学生には「今までどんな生活をしてきた?」「何をしている時が楽しかった?」とヒントを投げかけます。自分はどんな人間なのか、得意なことや好きなものは何なのか。自身を深く理解し、自分に合った業界・企業で長く活躍してもらいたいと考えています。

山西 和宏 非常勤講師 専門/ビジネス中国語



Point 2

天理市のインバウンド向けキャッチコピーを制作

インバウンド観光客向けに天理市の英語スローガンを開発するプロジェクトに中国語専攻の3名を含む学生有志6名が参加しました。中国語専攻では建学の精神のひとつ「貢献性」に基づき、ボランティアの理論と実践を学ぶ講義や実習、課外活動を実施しています。今回3名の学生がプロジェクト参加を志願したのはそれらの取り組みの成果といえます。

このプロジェクトは株式会社 Creative Project Baseが、キリーロバ・ナージャ氏(電通 B チーム クリエイティブディレクター)、株式会社ディスカバー・ジャパンとともに手がけています。学生たちはまず天理市内の魅力的な場所をリサーチし、魅力を表す単語を抽出。その単語をもとに学生が考案した450本のコピー案をナージャ氏主導のもとブラッシュアップし、天理市のインバウンド向けキャッチコピー「Time Travel City」が誕生しました。

INTERVIEW

言葉で魅力を伝える技術を学びたいと思い、参加しました。みんなで案を出し合うなかで私たち自身も天理市の魅力を再発見できたように思います。また、プロの方のコピー制作への取り組み方を間近で見られたのもとても良い経験になりました。この経験を活かし、将来は企業の広報に携わりたいです。

山下 悠衣さん
国際学部 外国語学科
中国語専攻 4年生



Point 3

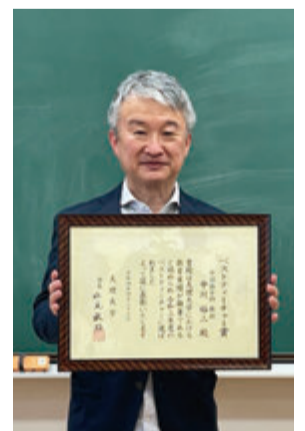
中川教授が全学対象の ベストティーチャー賞を受賞

中国語専攻の中川裕三教授が2021年度ベストティーチャー賞を受賞しました。2017年度から始まったベストティーチャー賞は、春学期と秋学期の「学生による授業評価アンケート調査」の結果をもとに点数を算出し、学部長会で審議を行ったうえで上位1名を選出するもの。ベストティーチャーに選ばれた教員は学長から表彰状を授与されます。中川教授は、ただ単に専門知識を教えるのではなく「学生の良いところを褒めて積極性を引き出す」、「一人ひとりの目標達成まで丁寧に指導する」といった方針で授業されているとのこと。中川教授の人物像について学生たちは「特に中国語の発音とスピーチの指導に熱心な先生」「実社会で通用するようにと、徹底的に時間をかけて教えてくれる」、「私たちの意見を否定することなく、できる限り受け入れてくれる優しい先生」と話してくれました。

INTERVIEW

天理大学の卒業生として、後輩たちが自信を持てる中国語力や思考力を養いたいと思い、授業を行っています。オンライン授業では例年通りにできないことも多くありましたが、「コロナに負けるな!」と自分を鼓舞し、学生にも『『コロナ世代』と陰口を言われないように頑張ろう!』と励ましてきました。ベストティーチャー賞受賞も嬉しいですが、学生がやる気を出して育ってくれたことが何より嬉しく、充実感を覚えています。今後はオンライン授業で身につけたスキルを対面授業でも活用するなど、さらに授業を改良していきたいと考えています。

中川 裕三 教授 専門/中国語学



ひとを想い、 行動できる情熱を。

—ON-GOING PROJECT—
外交官養成プロジェクト



2022年度 外交官養成セミナー 開講式を挙

6月3日、「外交官養成セミナー」の開講式が天理大学創設者記念館(若江の家)で執り行われました。天理大学では、少人数制による語学教育の伝統を活かして、難関の外交官試験を突破し、建学の精神を世界で体現できる人材を育成することを目的として、2018年末から「外交官養成プロジェクト」を実施しています。試験と面接を経て選抜された学生は、1年生から3年生にかけてハイレベルな語学力と国際的に通用する教養を身につけるための「外交官養成セミナー」を受講。4年次に実施される外務省の専門職試験合格を目指します。

開講式には継続受講が認められた3~4年生4名と新たに選抜された1年生8名が出席。式典で挨拶に立った東馬場副学長は、学内の選考に合格した受講生を祝福し、「外交官養成セミナー」はこの先の人生を大きく左右するものであると述べました。また「外務省の専門職試験合格というゴールを目指し、同じ志をもつ仲間と切磋琢磨してほしい」と受講生の今後に期待を寄せました。受講許可証を受け取った学生は一人ずつ意気込みを語り、決意を新たにしました。



国際支援募金を開設

天理大学では、今回の避難家族や留学生受け入れに際し寄り添った支援を行っていくため、「天理大学国際支援募金」を開設しました。天理大学関係者はもとより、卒業生の皆様、地域住民の皆様、本募金の趣旨にご賛同くださる皆様には、何卒ご支援賜りますようお願い申し上げます。

※お寄せいただいた募金の用途に関しては、まず、今回避難されるご家族や留学生に生活、修学の支援としてお渡しさせていただく予定です。(経過報告は順次ホームページにてお知らせ致します)。あわせて他の国際支援の活動に本募金を充てさせていただきます。

【入金先の口座情報】

金融機関：奈良中央信用金庫
支店名：本店営業部(店番011)
預金種別：普通預金
口座番号：1033165
口座名義：天理大学国際支援募金
口座ヨミ：テンリダイガクコクサイシエンボキン

注意事項

- 奈良中央信用金庫本店「店頭窓口」でのお振込みでは手数料が無料になります。
- ATMによる入金には手数料がかかります。ご了承ください。
- クレジットカードによる入金は現在取り扱っておりません。
- 個人の寄付金控除の対象とはなりません。

問い合わせ先
天理大学長室企画課内「天理大学国際支援募金」係
TEL:0743-63-9012 mail:shien@sta.tenri-u.ac.jp

INTERVIEW

チューターとして友人として、一人ひとりと向き合いたい。

中学生の頃、UNICEFのボランティア活動をしたことがきっかけで外交や国際情勢に興味を持つようになりました。現在は外交官養成セミナーで学びながら、大学の国際交流センター室からお声がけいただきチューターとしての活動にも励んでいます。チューターの主な活動内容は日本語学習と学校生活のサポート、募金活動、通訳などです。活動を通して、支援のカタチに正解はなく、与えるだけが支援ではないことを学びました。今後もチューターとして精一杯サポートすると同時にひとりの友人として向き合い、寄り添っていきたくです。

国際学部 外国語学科 英米語専攻 3年生 吹ヶ心さん



ウクライナからの 避難民へのサポートを実施

天理大学では、天理市と連携し、本学卒業生のウクライナ人ボランティア「オクサーナさん」(家族計3名)を4月13日より受け入れることとなりました。本学とウクライナ国立キウウ大学は、2003年2月14日に交流協定校として締結して以降、交換留学制度などを通じ、学術交流を深めてきました。今回はオクサーナさんご家族と日野貴夫准教授が旧知の仲であることも、受け入れのきっかけとなりました。また本学では、宗教性・国際性・貢献性を身につけ、社会や人のために行動できる人材の養成を建学の精神として掲げており、天理外国語学校として創設された1925年以来、異文化理解を深めるべくさまざまな国際教育を実施してきた歴史があります。こうした本学の伝統と資産を活かし、就労支援としてオクサーナさんを天理大学の職員として雇用するほか、修学支援として2名のお子さんの日本語教育をサポートすることに決定しました。修学支援に関しては、在学生もチューター制度などを通じて積極的に携わり、日本語教育と学校生活をサポートしています。

どんな環境でも前向きに逞しく。 外交を裏方として支え、 日本と世界の架け橋に。

PROFILE

在ハイチ日本国大使館
三等書記官

おおぐろ かずとし
大黒 和親さん

国際文化学部 ヨーロッパ・アメリカ学科 フランス語コース、2013年3月卒業。在学中にはフランス・オルレアン大学に留学。2013年4月よりジブチ共和国にて在外公館派遣員を務める。任期中に本官採用試験に合格し、2016年10月より外務省 国際協力局に配属。2020年4月より現職。

責任感を胸に

多岐にわたる業務で国際貢献を。

「外交官というと国際舞台で華々しく活躍するイメージがあるかもしれませんが、実は表には見えない業務がほとんど。それでも裏方として国と国をつなぐ厳しくもやりがいのある仕事です」。

そう語るのは、国際文化学部ヨーロッパ・アメリカ学科の卒業生、大黒和親さんだ。大黒さんはいま、外務省三等書記官としてカリブ海に浮かぶハイチ共和国に駐在している。

「私は主に領事業務を行っています。訪日ハイチ人のビザの審査・発行から、現地の邦人の戸籍や国籍、パスポート、在留証明書の発行まで業務は多岐に渡ります。現地で暮

らす邦人の安心安全を守る責任感を胸に業務に取り組んでいます。また、国際会議やサミット等の資料作成も大事な仕事。特に印象に残っているのは2019年に横浜で開かれたアフリカ開発会議(TICAD)です。発言応答要領などの作成を担い、当時の安倍首相やアフリカ諸国の首脳陣を陰ながらサポートできたのは感慨深かったですね」。

多くの人と会話がしたい

その想いが外交官をめざす原点。

日々の業務も日常会話もフランス語でこなす大黒さんだが、天理大学でフランス語を専攻した理由はユニークだ。

「高校時代は、千葉県の市立船橋高校の体育科で剣道に打ち込み、正直なところ勉強は二の次でした。語学や国際文化に興味はありましたが、英語は周囲に遅れをとっている。それなら英語以外に使える言語を学ぼうと考えたのです。そこで選んだのが母語として使用される国と地域が英語の次に多いフランス語でした」。

フランス語を学べば色々な国で会話ができる。その発想が語学学習のモチベーションとなり、在学中はスピーチコンテストへの出場やフランス・オルレアン大学への1年間の留学も果たした。

卒業後は語学力と留学経験を活かし、在外公館派遣員としてジブチ共和国に赴任。そこで待っていたのは最高気温が50度を超える過酷な環境だった。

「自ら希望したアフリカ行きでしたが、現実の厳しさを知りました。蛇口をひねると水が出るといった日本では当たり前だと思っていたことが、いかにありがたいことだった

か気づかされましたね。現地の文化や価値観を知ること視野が広がり、日本を見つめ直す機会にもなりました」。

大学で培った語学力と

人間力を活かし、

天理から世界へ。

大黒さんの次の目標は英語圏の先進国への赴任だ。大学入学前まで苦手意識をもっていた英語もいまでは「使えて当たり前」の職業なのでもっと磨きたいですね」と笑う。語学力以外にも外交官には情熱や使命感、逞しさ、柔軟性、コミュニケーション力が求められるという。

「それらはまさに私が天理大学で培った資質です。外務省が求める人材像と天理大学の強みが一致しているのです。加えて『外交官養成プロジェクト』も始まり、天理から世界へはばたく後輩がますます増えることを期待しています。今はリモートでのコミュニケーションが主流になりつつありますが、現地へ行かなければわからないことはたくさんあります。人と人が面と向かい、握手をする。その国ならではの挨拶をして、目と目を合わせる。状況が許せば、ぜひ肌で国際感覚を磨いてほしいです」。



News and Topics



ウクライナ避難民を 大学と市が連携して支援

4月13日、天理大学は天理市と連携して本学卒業生であるウクライナ人、オクサーナ・コベリヤンスカさんとそのご家族を避難民として受け入れた。15日には、オクサーナさんと永尾学長が天理市を表敬訪問。市と連携してご家族の就労・修学・生活支援を行うことを報道関係者に発表した。



奈良中央信用金庫と 包括連携協定を締結

4月28日、天理大学と奈良中央信用金庫(高田知彦理事長)は、産学金連携で地域経済活性化などを目的とした包括連携協定を締結した。永尾学長は、「学生の視点を活かして産業や地域に貢献していきたい。」と述べるとともに「18歳成人に伴う学生の金融リテラシー向上についても協力を仰ぎたい」と語った。



株式会社大一電化社と産学 連携協力推進協定を締結

天理大学は、5月3日、株式会社大一電化社(上田隆代表取締役)と産学連携の協力推進に関わる協定を締結した。締結式は、大型連休で賑わう「なら歴史芸術文化村」で執り行われ、天理大学生が大一電化社の協力のもと開発した「天理大学オリジナルブレンドコーヒー」の紹介と試飲サービスも併せて行われた。



阪神大学野球春季リーグで 3季連続優勝

硬式野球部は、5月7日、阪神大学野球春季リーグ戦で3季連続22度目となる優勝に輝いた。この結果により、「第71回全日本大学野球選手権大会」出場が決定。岩本大輔主将は、「3連覇を目標に苦しい時期も全員で乗り越えてきた。大学選手権ではベスト8を超えることを目標に頑張っていきたい。」と語った。



ウクライナ人避難学生 9人を受け入れ



ロシアのウクライナ侵攻により、避難を余儀なくされたウクライナ人学生9人が、6月下旬から順次来日。9月から1年間、天理大学

で日本語を学ぶことになった。避難学生の受け入れにあたっては、天理市と連携して支援体制を整えており、天理大学は学費免除に加え、留学生宿舍の無償提供、このたび創設した「天理大学国際支援募金」から毎月3万円を支給する。天理市も学生一人ひとりに支援金20万円を支給した。

7月19日に天理市を表敬訪問した一行に、並河天理市長らが花束を手渡して歓迎。避難学生は、一人ずつ日本語で自己紹介と感謝の言葉を述べた。コザリーナ・オクサーナさんは、「日本のサポートはとても大きな意味があります。日本で勉強を続けることができることに感謝しています。天理大学、天理市、日本の皆様のご支援に心からお礼を伝えたいです」と語った。(10Pに関連記事)

天理大学では4月12日より「国際支援募金」を実施しております。8月1日現在の募金状況についてご報告申し上げます。

●募金額中間報告(8月1日現在)

募金箱 1,454,279円
街頭募金 430,524円 <合計>
口座振込 5,997,490円 7,882,293円

●募金方法:

天理大学本館(研究棟)玄関ホール設置の募金箱
奈良中央信用金庫「天理大学国際支援募金」口座
への振込み

なお当初、募集期間を7月15日までとしておりましたが、6月下旬から順次来日したキウ大学生9人の受け入れに伴い、当面の間、期間を延長させていただきます。何卒ご支援賜りますようお願い申し上げます。

【入金先の口座情報】

金融機関：奈良中央信用金庫
支店名：本店営業部(店番011)
預金種別：普通預金
口座番号：1033165
口座名義：天理大学国際支援募金
口座ヨミ：テンリダイガクコクサイシエンボキン

注意事項

- ・奈良中央信用金庫本支店「店頭窓口」でのお振込みでは手数料が無料になります。
- ・ATMによる入金には手数料がかかります。ご了承ください。
- ・クレジットカードによる入金は現在取り扱っておりません。
- ・個人の寄付金控除の対象とはなりません。

■お問い合わせ先：天理大学学長室企画課内 「天理大学国際支援募金」係
TEL:0743-63-9012 mail:shien@sta.tenri-u.ac.jp

新任教員紹介

①所属 ②職名 ③現在の専門分野



とくだ しんぞう
徳田 眞三

- ①体育学科
- ②教授
- ③武道論



おばた おさむ
小畑 治

- ①体育学科
- ②准教授
- ③体育科教育学



まつき ゆうや
松木 優也

- ①体育学科
- ②講師
- ③コーチング学、
ハンドボール



すなが さとし
須永 哲思

- ①総合教育研究センター
教職課程
- ②講師
- ③近現代日本教育史



おおたに あゆみ
大谷 歩

- ①国文学国語学科
- ②講師
- ③上代文学

天理市周辺の名店とその逸品を紹介

THE 天理 ゴハン



こだわり素材の フルーツサンド専門店

この春、天理市にオープンした果実堂は素材にこだわり抜いたフルーツサンド専門店。毎朝市場から直送される新鮮なフルーツと北海道産の生乳から作られる濃厚な生クリームをもちもちのパンで優しくサンドし、見た目も味も大満足の逸品です。人気のミックスサンドやいちごサンドをはじめ種類も豊富。季節限定商品も味わえます。

「各種フルーツサンド」：¥240(税込)～
【果実堂 天理店】〒632-0018 奈良県天理市別所町240-1
※テイクアウトのみ、売切れ次第終了 Tel: 0743-84-4830 (年中無休)

— 研究室探訪 —

「人だすけ」を实践し、その意味を学ぶ。
天理教の原典を研究

ふかや こうじ
人間学部宗教学科 講師 深谷 耕治



天理教の原典である「おふでさき」や「おさしづ」について研究しています。研究からは、さまざまな影響を受けています。例えば「おふでさき」を読むと、天理教の教えが「あらゆる時代の世界中の人々」に対して向けられていることが分かりますが、ときに世界に目を向けられていない自分に気づかされることがあります。原典に触れることで、内向きになっていた姿勢を反省することができるのです。また研究では、原典の言葉を実際に行動に移す

ことを大切にしています。例えば「おふでさき」に繰り返し記される、「人だすけ」。実際に誰かを支え助けてこそ、初めてその意味が深く理解できると考えています。私たちは「自分のやりたいこと」にこだわりがちですが、その想いを一度手放してみることも良い経験になります。多くの人からの支えを実感しながら、今度は「自分が誰かを支える」という視点で進路を考えてみてください。そこにこそ、道は開かれるはずですよ。